

ことばの発達について

ことばを話し始める時期は個人差が大きいです。

修正年齢1歳6か月から2歳で有意語（意味のある言葉）がない場合や、3歳で二語文（2つの単語がつながっている）がない場合には、医療機関受診や幼児健康診査の際に医師や保健師などに相談をしましょう。

また、小さな音（呼びかけ）に反応するか試みて、少しでも耳の聞こえに不安がある場合には耳鼻科受診をお勧めします。

【ことばの発達を促すための日常生活について】

- ・乳児期の抱っこや授乳の時は、お子さんの目をしっかりと見て語りかける
- ・テレビやビデオ、スマホを見せすぎないようにする（特に2歳までは控える）
- ・絵本の読み聞かせをする

膝の上で一緒に身の回りの物（食べ物・乗り物）や動物等の絵を一緒に見ながら積極的に指差しをして「わんわんだね」「ブーブーだね」等話しかけたり、絵にあわせて音を発したり、歌ったりする

【ことばの理解の発達のためやす】（個人差があります）

修正月齢6～7か月以降：親の話し方で感情を聞き分ける

修正年齢1歳以降：「バイバイ」の言葉に反応したり、「おいで」「ちょうだい」がわかる

修正年齢1歳6か月以降：絵本を読んでもらいたがったり、簡単な命令がわかる

修正年齢2歳以降：「あたま」「ぼんぼん」「手」「おへそ」等の身体部分の名称を理解し、指さしができる。また、「もう少し」「もうひとつ」などの理解ができる

暦年齢3歳以降：大小、長い短いなどの対立概念、簡単な色がわかる

暦年齢4歳以降：数の概念がわかり、用途による物の指示がわかる

【発語の発達のためやす】（個人差があります）

修正月齢6～7か月以降：人に向かって声を出す（「マ」「バ」「パ」）

修正月齢10か月以降：おしゃべりをさかんにする（喃語）

修正年齢1歳以降：1～2語言える

修正年齢1歳6か月以降：絵本を見て一つの物の名前を言う

修正年齢2歳以降：「わんわん来た」等、2語文を言う

暦年齢3歳以降：自分の名前を言え、同年齢の子どもと会話をする

【ことばの理解や発語を助けるためのご家族の対応】

- ・ことばを出させようとするよりも、楽しい雰囲気と一緒に遊びながら話しかけることを大事にする
- ・必死になりすぎない
- ・ことばの訂正、言い直しを無理にしない
- ・生活の中で豊かなことばの表現（散歩しながら「お花きれいね」等話しかける）を意識する
- ・周囲がわかりやすく、短く、正しい発音で話す
- ・ことば以外のコミュニケーション（指さし、ジェスチャー等）も使用する